

菊池高校野球部後援会 特別事業

講師 中村順司 氏 (元PL学園硬式野球部監督)

6月2日から6日までの4日間、中村順司氏に指導に来ていただきました。

渡辺和雄監督のPL学園の先輩でもあり、日頃の親交も深い中村順司氏からお声掛けいただき、今回、菊池高校野球部後援会の特別事業として実施させていただきました。

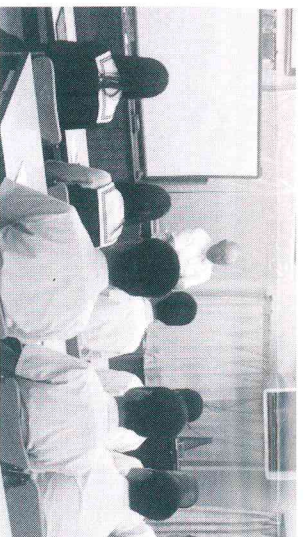
選手は、甲子園通算58勝(10敗)春夏通算6度の優勝経験を持つ中村(元)監督が、どのような練習方法や、指導をされるのか、など期待を持ちながら待っていました。

まず、グラウンドでは、準備運動・キャッチボール・トスバッティング・バッティング・守備など、基本的なことから教えていただきました。首の骨は7本、腰の骨は5本、肋骨は12本ある等人間の体についての知識や、体の使い方・コンバクトに動かせるようになるにはどうしたら良いのか、を指導していただきました。シートノックでは、ボールをとって投げたあとでも元の定位置まで走って戻る(プレーが終わったも次の行動をしっかりとやる)事、しっかりと声を出すこと、キャッチャーの送球方法などを教えていただきました。紅白戦では、バッティングのアドバイスを一人ひとりに教えていただきました。上手く出来ていたらしっかりと褒めていただき、出来ていなかったら改善例を教えてください、というような指導方法で、とても分かりやすかったです。

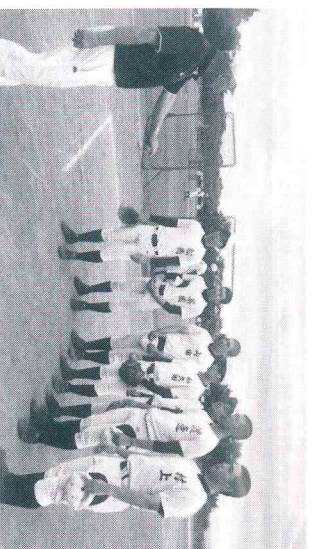
最終日は、拓志館(菊池高校の研修施設)で話をさせていただきました。

試合の心構えとして、何を考えるか? 球場の風の状況・太陽の位置・グラウンド状態、試合が始まったら、ボールカウント・アウトカウント・イニング・点差を常に頭に入れ、また試合の流れとして1回～3回(序盤)に先制点、4回～6回(中盤)に追加点、7回～9回(終盤)にダメ押し点、という試合展開にすることが大事。相手ピッチャーがアンダースローなのかサイトスローなのか・右投げなのか左投げなのか、投手の癖を掴む事は大事だけど、その中で自分のバッティングフォームを変える必要はなく、立つ位置や狙い球を考えることが大事。守備では、相手打者・走者の足の速さを頭に入れ守る位置を変える等、一打席ごとに守備位置を確認することが大事。「試合に勝ったときは選手のおかげ、負けた時は監督の責任」である。しかし負けた原因が、サイン見逃しがあつた・バント失敗があつた・全力疾走していなかった・声の連携が出来ていなかったのであれば、選手の責任にもなる。夏の大会までの練習で大切なはこの4つだ、と言われる。

中村監督の熱意あるご指導をしっかりと心に刻み、夏の大会まで全力で練習に取り組んでいきます。



【拓志館での中村氏による講話】



【中村氏のアドバイスを真剣に聞く部員】

編集後記

「頑張れ! 菊高球児」第三号を、今回も多くの方々に無事発送することが出来ました。3月は春の大会、4月は新入部員が12人入り、5月はRKK旗などと試合も多かったですが、チーム一丸となって頑張りました。夏の開幕まで残りわずかですが、悔いの残らないように練習に励んでいきます。これからも菊池高校野球部への応援をよろしく願います。